

輝かしい十年

1960年4月 初版発行

出 版 者 外 文 出 版 社

中 華 人 民 共 和 国

北 京 阜 成 門 外 百 万 荘

編號：（日）3050—289

輝かしい十年

外文出版社
北 京

出版者の言葉

本書は、中国共産党中央委員会副主席、中華人民共和国主席劉少奇氏をはじめ中国共産党と政府の指導者たちが、中華人民共和国建国十周年を記念するために執筆した論文一九篇を集めたもので、十年このかた中国人民が中国共産党と、中国各民族の偉大な指導者毛沢東主席の英明な指導のもとに、社会主義革命と社会主義建設のうえでおさめた輝かしい成果を、全面的に、系統的に、かつ深くほりさげて明らかにしています。本書に集めた文章は、いずれも、北京の人民出版社が一九五九年十二月に出版した「中華人民共和国成立十周年記念文集」のなから選んだものです。

目次

中国におけるマルクス・レーニン主義の勝利	劉少奇	七
偉大な十年	周恩来	四〇
党の総路線と毛沢東の軍事思想の		
赤旗を高くかかげて勇往邁進しよう	林彪	七三
中国人民の大団結と世界人民の大団結	鄧小平	七五
中国の解放——中ソの友誼——人類の未来への躍進	宋慶齡	一二〇
世界平和と人類進歩の事業のために奮闘した十年	陳毅	一二六
わが国の社会主義建設の大躍進について	李富春	一二八
総路線のかがやかしい光にみちびかれて		
軍事工作をひきつづき躍進させるため奮闘しよう	賀龍	一六〇

中華人民共和國における十年らしいの財政上の偉大な成果	李先念	一七五
工業戦線における大衆運動について	柯慶施	一七七
人民公社はわが国の社会発展の必然的な産物である	李井泉	二三八
たえずわが国各民族の大団結を發展させよう	ウランフ	三三六
共産党員はマルクス・レーニン主義者		
たるべきであり、党の同伴者たるべきではない	康生	三五三
農業の技術的改造という偉大な		
任務の実現を速めるために奮闘しよう	薄一波	二六三
中国人民の勝利の国際的意義	王稼祥	二七九
中国共産党は中国人民の社会主義建設の最高の統率者である	劉瀾濤	二九一
中国農業の社会主義的改造	鄧子恢	三〇五
十年らしいわが国科学・技術事業の發展	聶榮臻	三三三
十年らしいの革命と反革命との闘争	羅瑞卿	三五三

中国におけるマルクス・レーニン主義の勝利

中華人民共和国成立十周年を祝つて、

「平和と社会主義の諸問題」誌のために執筆

一九五九年九月一四日

劉 少 奇

偉大な中華人民共和国は、誕生してから現在まで、すでに十周年になる。

中国革命は、偉大な十月革命の継続である。偉大な十月革命は、人類の歴史に新しい紀元をひらき、世界の面貌をあらためはじめた。ソ連における社会主義建設の成功、ソ連を主力軍とする世界反ファシスト戦争の勝利、ヨーロッパとアジアにおける多くの社会主義国家の誕生はすべて、社会主義の興起と資本主義の没落が逆らうことの出来ない歴史の法則であることをしめしている。中国革命の勝利は、一段と世界の面貌をあらためた。中国革命は、帝国主義の東方における戦線に一大突破口をひらき、これによつて帝国主義の植民主義制度に致命的な打撃をあたえた。新中国は、ソ連を先頭とする社会主義陣営にくわつた。ソ連、中国およびその他の社会主義国は一体となつて、世界人口の三分の一をしめ、ヨーロッパとアジアの両州でひとつにつらなる、団結、友好の社会主義の大家庭をつくつた。帝国主義の圧迫をかつて受けあるいは現に受けているすべてのたちおくれた国々

の人民にとつては、中国革命は非常な吸引力をもっている。かれらは、中国人にやれたことはかれらにもやれるはずだということに気づいている。これらはすべて、全世界における資本主義と社会主義の力関係にすでに新しい変化がおこつていることをはつきりと物語つてゐる。

中国革命の勝利は、中国の社会的生産力を徹底的に解放し、中国の社会主義建設が一瀉千里の勢いで飛躍的に發展できるようにし、これによつて中国の貧しい、たちおくれた姿を急速にあらためつつある。

中国は、全国解放後のはじめの三年間、つまり一九五〇年から一九五二年までに、国民経済回復の任務を順調に達成し、これによつて工農業生産は総じて旧中国の最高水準になつし、またはこれをしのぐようになった。一九五三年から一九五七年までに、中国人民は第一次五カ年計画を遂行し、これによつて工業生産総額は一四一パーセントふえ、農業生産総額は二五パーセントふえ、現代工業の国民経済中にしめる比重は一九五二年の二六・七パーセントから一九五七年の四〇パーセントへと高まつた。第一次五カ年計画の完遂によつて、中国には工業化の一応の基礎がうちたてられた。一九五八年から、われわれは第二次五カ年計画の遂行にとりかかつた。一九五八年には、国民経済の大躍進があらわれた。工業生産総額は一九五七年より六六パーセントふえ、農業生産総額は一九五七年より二五パーセントふえた。今年はまだ、昨年の大躍進の基礎のうえに、ひきつづき躍進をとげている。一九五八年にくらべて、今年の工農業生産総額は二〇パーセント、工業生産総額は二五・六パーセント、農業生産総額は一〇パーセントそれぞれふえる予定である。鉄鋼、石炭、冶金設備、発電設備、金属切削機械、綿糸、原木、食糧、綿花など工農業の主要生産品の計画生産量はすべて、第二次五カ年計画に当初定められていた一九六二年の指標を完遂するか、超過するか、またはこれに接近するであらう。中国における社会的生産力の

このような飛躍的な発展は、いかなる資本主義国も太刀打ちできないものであり、ましてや旧中国の条件の下ではもちろん夢想だにできないものである。✓

マルクスが、「革命は歴史の機関車である」①と言つたのはまったく正しい。中国では、帝国主義、封建主義および官僚資本主義をくつがえす民主主義革命なしには、また、資本主義制度を廃絶する社会主義革命なしには、現代工業、現代農業および現代科学・文化の急速な発展はありえないし、今日のような、全国人民が元氣激昂、意気軒昂として社会主義と共産主義の事業のために奮闘するという局面はみられなかつたであらう。革命は、中国人民にかぎりない希望ときわだつて輝かしい前途をもたらしているのである。

十年らいの中国人民の勝利は、マルクス・レーニン主義の勝利であり、中国共産党の指導の勝利であり、中国共産党の民主主義革命の総路線、社会主義革命の総路線、社会主義建設の総路線の勝利である。

中国の民主主義革命の時期に、毛沢東同志は、「中国共産党の指導する中国の全革命運動は、民主主義革命と社会主義革命の二つの段階をふくむ全革命運動であり、……民主主義革命と社会主義革命の区別をはつきり認識すると同時に、両者のつながりをはつきり認識することによつて、はじめて中国革命を正しく指導することが出来る」②という考えをくりかえし明らかにした。一方、中国革命における右翼日和見主義者は、ロシアのメンシエビキと同様に、「万里の長城」で民主主義革命と社会主義革命をきりはなし、この二つの革命のあいだの相互のつながりを見てとることが出来ず、民主主義革命のさいに、この革命を社会主義革命へ転換させうる前途のあることを見てとることが出来なかつた。他方、「左」翼日和見主義者は、これまたロシアのトロツキストに似ていて、民主主義革命と社会主義革命の限界を混同し、民主主義革命の段階で、ブルジョアジーをなくし、社会主義

革命の任務を実現しようとした。この二つの誤った傾向はいずれも中国革命に非常な損失をもたらした。「左」右両種の日和見主義とは反対に、毛沢東同志によつて代表される、中国革命を指導する正しい方針は、一方では、マルクス・レーニン主義の革命発展の段階論を実行し、民主主義革命と社会主義革命というこの二つの段階における革命の任務をはつきりと区別することであり、他方ではまた、マルクス・レーニン主義の連続革命論を実行し、この二つの革命をしつかりとむすびつけて、民主主義革命の段階において、出来るかぎり将来社会主義革命を遂行するための条件を準備し、これによつて、民主主義革命が全国にわたつて勝利をおさめたのち、停頓することなくただちに社会主義革命の闘争を展開することであつた。

プロレタリアートが、共産党をつうじて、民主主義革命の指導権をしつかりとにぎること、これは民主主義革命の徹底的な勝利と、民主主義革命を勝利のうちに社会主義革命へと転換させることを保証する鍵である。中国のいかなるブルジョア政党も、帝国主義と封建主義に徹底的に反対する綱領をかかげることができなかったし、中国の民主主義革命を徹底的に遂行することができなかった。プロレタリアートの指導のもとに、労農同盟を基礎とし、団結しうるいつさいの勢力と団結し、帝国主義、封建主義および官僚資本主義に反対する闘争を徹底的に遂行すること、これがわが党の民主主義革命指導の総路線であつた。この総路線は、毛沢東同志の要約によれば、「プロレタリアートの指導する、人民大衆の、帝国主義、封建主義および官僚資本主義に反対する革命」③ということになる。

中国はたちおくれた大国であり、その農村人口は八〇パーセント以上をしめ、さらに貧農と雇農が農村人口の七〇パーセントをしめ、農民問題はわが国における民主主義革命の中心課題であつた。旧中国の反動支配は極

度に野蠻であり、人民大衆は完全な無権利状態におかれていて、進歩的な革命家はおおぜい逮捕され、殺害された。このため、民主主義革命の時期には、中国共産党はふかく農村に入り、農村が都市を包囲する武装革命闘争を指導すること二十二年の長きにおよんだ。党が、あくまで農民の政治的自覚と組織力にたより、農民を起ちあげさせて、農民が自分で自分を救い、自分で地主を打倒し、土地を手に入れ、土地をまもるという大衆路線の方針（党のこの方針は、中華人民共和国誕生後の土地改革のなかでもそのままひきつづき貫かれている）をとり、これと反対の、土地を農民に「恵み与える」というブルジョア的な方針をとらなかつたことによつて、党は農村に強大な、たよりになる革命の堡壘をうちたて、革命軍隊と革命根拠地をうちたて、広はん貧窮した農民の革命的積極性と革命的規律性をしだいに革命的プロレタリアートの水準にちかいところまで高め、そして、そのなかから党と党の指導する人民の軍隊に必要な、つきることのない人力、物力の予備をえたのであつた。中国共産党が農村の革命根拠地に依拠しておこなつた革命戦争、農村の革命根拠地でおこなつた土地改革と経済、文化の建設は、事實上、全国的な勝利を準備するため長期にわたつて繰りかえしおこなわれた偉大な演習であつた。これらの演習のなかで、大衆が教育され、軍隊が鍛えあげられ、革命の力がたくわえられ、幹部が養成されるとともに、党の指導が各方面にわたつてゆたかな経験をくみとつたのであつた。

民主主義革命のなかで、プロレタリアートと広はん農民大衆のもつとも緊密な同盟がうちたてられたことによつて、われわれは民族ブルジョアジーと革命的な統一戦線をうちたててゐる問題を正しく解決することが出来た。中国の具体的な状況にもとづいて、われわれは中国ブルジョアジーの二つの部分を正しく区別した。一部は官僚買弁ブルジョアジーであつて、かれらは帝国主義の道具であり、封建主義の保護者、同盟者であり、民族民主主

義革命の凶悪な敵であり、かれらにたいしては断固たる闘争をおこなわなければならない。他の一部は民族ブルジョアジーであつて、かれらは帝國主義、封建主義、官僚資本主義の圧迫と排斥をうけ、民族經濟の獨立した發展を要求し、したがつて、革命に参加するか、または革命にたいして中立をたもつ可能性があつた。しかし、かれらは軟弱性をもつており、革命的であると同時に反動的であるという二面性があり、つねに、動揺してやまぬ、中間的な地位にあつた。このことからわれわれは、一方では、一定の条件の下でかれらと連合して反帝・反封建・反官僚資本の革命をすすめることが必要であつたし、他方では、かれらの妥協性と闘争することが必要であつた。こうした統一戦線の政策をとつたため、われわれは革命勢力を拡大し、中間勢力を獲得し、反動勢力を孤立させるといふ目的を達成し、革命におけるプロレタリアートの指導権を確保し、もつとも広はんな人民大衆を結集したのであつた。

中国の民主主義革命の時期に、民主主義革命と社会主義革命といふこの二つの革命のつながりをきりはなした右翼日和見主義者と、この二つの革命を混同した「左」翼日和見主義者はいずれも、農民問題がわれわれの革命事業にどれほど大きな意義をもっているかが分からず、そのため、ブルジョアジーの問題をも正しく処理することが出来なかつた。右翼日和見主義者はブルジョアジーにたいして投降主義の路線をとり、民主主義革命を主としてブルジョアジーの仕事であるとみなした。かれらは、労働者と農民の同盟にたよることをしないで、主としてブルジョアジーとの統一戦線にたよるとともに、ブルジョアジーにたいしては連合するだけで、必要な闘争をおこなわなかつた。こうして、かれらはプロレタリアートの指導権を放棄し、ブルジョアジーが革命を裏切るという事態のもとで、革命を失敗させ、プロレタリアートと広はんな人民の事業に重大な挫折をもたらした。革命

の勝利の条件がすでに熟し、時機をつかんで勝敗を決する闘いをおこなわなければならないときにおいてさえも、これら右翼日和見主義者はあえて勝利をかちとろうとはせず、はなはだしきに至つては勝利を阻止しようとさえした。「左」翼日和見主義者は、各種の小ブルジョア大衆や民族ブルジョアと連合することをのぞまず、さらに、あやまつて中間勢力を主要打撃の方向とし、民主主義革命のなかで各種の中間勢力と連合しまたはこれを中立化させることの必要性和可能性を否定した。かれらは、民族ブルジョアにたいしては闘争するだけで、適当に連合することをしなかつたし、ましてや敵の具体的な矛盾を利用し、力を結集してもつとも主要な敵に反対することなど、なおさら望まなかつた。その結果は、これまたプロレタリアートの指導権を放棄し、プロレタリアートを孤軍奮闘の状態におとし入れ、革命の勝利を不可能にしたのであつた。「左」翼日和見主義者と右翼日和見主義者は一つの共通点をもっており、かれらはいずれも農民の革命的要求と革命的気力を軽視し、反動支配の時期に、われわれが農村に根をおろすことができ、農村に革命根拠地をうちたてることができ、農村をつうじて都市を包囲し、さいごには都市を奪取する目的を達成できることを認めなかつた。したがつて、「左」翼日和見主義者と右翼日和見主義者は、一定の条件のもとでは、たがいに位置をとりかえることがありうる。たとえば、王明同志がそれで、かれはわが国の第二次国内革命戦争の時期における第三次「左」翼路線の主な代表者であつたが、抗日戦争の時期になると今度は右翼日和見主義の主な代表者になつた。

毛沢東同志を先頭とする中国のマルクス・レーニン主義者は、「左」右両種の日和見主義との闘争のなかで、全党を団結させ、これによつて中国革命を正しい道にそつてぐんぐん発展させ、次から次へと革命の勝利をかちとつた。

中国共産党の指導する人民革命の勝利は、徹底的に旧中国の国民党反動支配をうちくだし、人民を圧迫するその官僚機構と軍閥機構をうちくだいて、一九四九年に、實質的にはプロレタリアート独裁の、偉大な人民共和国をうちたて、かくて民主主義革命から社会主義革命への転換を順調に実現した。中華人民共和国の誕生は、革命の最も主要な問題である権力の問題のうえで、中国の民主主義革命の終結と社会主義革命の開始を示すものであった。中国のプロレタリアートは、民主主義革命を指導して勝利を勝ちとると同時に、国家にたいする自己の政治的支配権をしつかりうちたてたので、社会主義の勝利のためにふたたび権力奪取の闘争をおこなう必要はなかった。これは、わが党が、民主主義革命のなかで、われわれの最後の目的は社会主義革命をおこなうにあることを寸時といえども忘れず、そのために、民主主義革命の長期にわたる闘争のなかで、十分な注意をもつて、プロレタリアートの指導権を確立し、且つこれをうちかためた結果である。

一九四九年三月、全国的な勝利の前夜、毛沢東同志は、党の第七期中央委員会第二回総会で、中国革命が全国的な勝利をおさめていご、国外の主要な矛盾はやはり中国人民と帝国主義とのあいだの矛盾であるが、国内の主要な矛盾は、中国人民と地主階級、官僚ブルジョアジーとのあいだの矛盾から労働者階級とブルジョアジーとのあいだの矛盾、すなわち社会主義と資本主義とのあいだの矛盾に席をゆずるであろうと指摘し、さらにこの矛盾を解決する一連の基本政策をうち出した。中国人民は、全国的な勝利ののち、はじめの数年間、民主主義革命の段階からのこされた任務、主として全国のきわめて広い地区で土地改革をおこなつて封建地主階級をなくするという任務をひきつづき解決しなければならなかったが、しかし、社会主義への移行は実際にはすでに一九四九年からはじまつていた。中国のプロレタリアートは、広はん大衆の支持にたより、国家の力をつうじて官僚資

本を没収し、国家の経済的命脈をしっかりと手中ににぎり、強大な社会主義の国営経済を積極的にうちたてるとともに、この経済を国民経済全体のなかで指導的な地位につかせたのである。

一九五二年末、国民経済の回復と封建的残渣の一扫という任務が基本的に完成したさい、毛沢東同志を先頭とする中国共産党中央は、過渡期における総路線、すなわち、社会主義革命と社会主義建設を同時におしすすめてゆくという総路線をうち出し、全国にわたつて農業、手工業および資本主義的工商業にたいする社会主義的改造を一步一步実現し、国の社会主義的工業化を一步一步実現してゆくという任務を規定した。この総路線がうち出されたとき、わが国の人民はちようど偉大な抗美援朝の戦争をおこなつていた。われわれは、一方では、新中国をしめ殺そうとするアメリカ帝国主義にたいし断固として闘い、この闘争のなかで全国人民を結集して偉大な勝利をかちとり、他方、国内では、一步一步もふみとどまることなく社会の改造と建設の活動をつづけていった。

中国共産党のこの総路線は、中国の社会をみちびいて、当時の、社会主義経済もあれば資本主義経済もあり、さらに単独経営経済もあるという複雑な経済のしくみから、単一の社会主義経済のしくみへ移らせてゆく路線であつた。当時、いちぶのものは、社会主義へ移行する必要性を否定した。かれらは、中国で資本主義を発展させて、資本主義のふるい道をすすもうと企図したり、あるいは革命を停止させて、社会主義経済もあれば資本主義経済もあるという現状を長いあいだ保持しようとして企図した。党のこのマルクス・レーニン主義の総路線は資本主義から社会主義へ移行しなければならないことを肯定するものであり、したがつて、右の方からくる各種のまちがった観点を否定した。それと同時に、党のこのマルクス・レーニン主義の総路線はまた、社会主義への移行は漸進的でなければならぬし、資本主義的工商業にたいする社会主義的改造も漸進的でなければならぬことを